

診療科目 ● 形成外科学

附属病院	形成外科
主任教授	前川 二郎 (形成外科部長)
講師	三上 太郎、松原 忍
助教	菅原 順
附属市民総合医療センター	形成外科
准教授	佐武 利彦
病院講師	安村 和則
助教	廣富 浩一

本プログラムの特徴

- 形成外科は、その診療科名にも表現されているように、特定の担当臓器を持ちません。しかし、守備範囲は、解剖学的にも、年齢的にも、疾患概念的にも、他の診療科と比較して類を見ないほど幅広いのが特徴の一つです。そのため形成外科医には、同様に幅広い知識と経験が求められます。
- 本プログラムは、専門性の高い疾患症例が集まる大学病院に加えて、それぞれの特色を持つ研修協力病院をローテーションする事によって、それらをほぼ網羅経験出来るように考案されています。

目 標

- 一般形成外科の診療にあたり、必要とされる知識や手技を幅広く習得する。
- 日本形成外科学会専門医の受験資格を、最短の4年間（※大学病院としては後期研修医扱いは3年間）で満たし、入局5年目（医師7年目）に専門医を取得することを目標とする。
- 専門医取得後は、研修協力病院の施設長に就く可能性も高く、それを念頭に研修が組まれている。

目標とする学会認定専門資格

日本形成外科学会認定形成外科専門医	日本形成外科学会認定・皮膚腫瘍外科専門医
日本熱傷学会認定熱傷専門医	日本頭蓋顎顔面外科学会認定・頭蓋顎顔面外科専門医
日本手の外科学会認定・手の外科専門医	日本美容外科学会認定・美容外科専門医
日本創傷外科学会認定・創傷外科専門医	

主な協力病院

1. センター病院高度救命救急センター 2. 神奈川県立こども医療センター 3. 関東労災病院 4. 藤沢市民病院
5. 横浜栄共済病院 6. 藤沢湘南台病院 7. 横浜市南部病院 8. 横浜労災病院 9. 港南台病院

診療科のホームページ URL	担当者・連絡先
http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~prs_ycu/	菅原 順 (6236)

診療科の実績

「診療」では、附属病院・附属市民総合医療センター（以下、センター病院）合わせて、年間新患数約1,600人、年間手術症例数は約1,400件の診療にあたっています。附属病院の特徴としては、リンパ浮腫の総合治療、小耳症の耳介再建手術、頭頸部悪性腫瘍術後の再建手術があります。センター病院の特徴は、唇顎口蓋裂や他の頭蓋顎顔面奇形の形成手術、乳癌術後の乳房再建、重症熱傷の救命治療、血管腫など母斑のレーザー治療が挙げられます。首都圏にある大学病院形成外科として、比較的稀な疾患の症例が集まる先進的治療を提供するとともに、一般的な皮膚腫瘍、顔面外傷などの治療も幅広く受け入れています。

「教育」では、横浜市内に2病院を有するという好条件も幸いし、多様な疾患、豊富な症例に恵まれており、オールラウンドな研修の基礎となっています。また、神奈川県下の多数の地域基幹病院や専門病院と研修ローテーションを組んでおり、形成外科の一般領域と、希望に応じた専門領域の研修が出来るように調整しています。

「研究」では、センター病院の各種遊離皮弁による乳房再建術や、附属病院でのリンパ浮腫に対する臨床研究が全国的にも注目を集めており、国内だけでなく、国際的にも注目を集めています。また、2010年度開設の附属病院セルプロセッシングセンターを利用し、再生医療の臨床応用に向けた計画を進めています。その他、患者や医療従事者の啓蒙活動として各種研究会を開催したり、各地域での講演会を行うなど、常に世界を視野に入れつつも、地域を根付いた診療を目指しています。

指導医から一言

形成外科は外科の守備範囲は部位、年齢、疾患いずれにおいても幅広く、常に見聞を広め深めて行かなくてはなりません。しかしながら、手術手技そのものは、いずれの外科系においても通用するごく基本的なものの組み合わせあるいは応用です。よりよいものを常にもとめたいひと、ルーチンワークに流されたくないひと、創意工夫を凝らすのが好きなひとには形成外科は向いているでしょう。専門医取得までに必要とされる後期研修期間の約3年間は、協力病院ごとに多少の違いはありますが、忙しい毎日になるでしょう。ですが、きっと充実した日々になる事と思います。御質問は随時受け付けますのでまずは御連絡下さい。

シニアレジデントからのメッセージ

入局7年目の小池です。私は3年間のシニアレジデントの期間で、1年目、3年目を市中病院で研修し、2年目は附属病院（福浦）で研修を行いました。

形成外科では市中病院でも診療する疾患に病院毎に特色があります。関東労災病院では腫瘍切除や顔面骨折などの症例が多く、藤沢市民病院では外傷や難治性潰瘍の症例を多く経験できました。附属病院では様々な癌や変性疾患に対する再建外科だけでなく、全国的にも珍しい小耳症やリンパ浮腫などの手術を行う施設であり非常に多くのことを学びました。

形成外科の扱う疾患は、外傷、熱傷、表在腫瘍、先天異常、再建外科、難治性潰瘍、美容医療など非常に多岐に渡り、多くの知識と全身の解剖の理解、それに多くの経験が必要となります。当科は関連病院として、一般市中病院のほか、こども医療センターや熱傷センターなどそれぞれの疾患に特化した病院があるため、幅広い形成外科の全域をカバーすることが可能であり、専門医取得に必要な症例も数多く経験できます。

形成外科の手術は診療範囲が広いと、いわゆる定型的な手術だけでなく様々な工夫を必要とする手術が多く、毎回の手術に発見とその工夫がうまくいった時の達成感が得られます。

はじめは形成外科の特殊性から治療に対して悩むこともありますが、サポートする医局員の先生たちは温厚な先生が多く他の関連病院の先生でも相談に親身に応じてくれます。

また定期的に症例検討会や新入局員の先生向けに勉強会も行っており、症例の相談などする機会も多くあります。

いろんな手術をしたい人、あれこれ考えて工夫するのが好きな人、細かい作業が好きな人などは、形成外科に入れば毎日楽しく働けると思います。一緒に形成外科のエキスパートとして頑張りましょう。